

平成 29 年度 施策評価表

□

施策	1802	利便性の高い公共交通の確立	施策推進担当部	産業振興部
施策の方針	JR大村線や路線バス等の公共交通網の整備・充実を図る。また、長崎県の空の玄関口である長崎空港の利便性向上や機能強化を推進する。			

【DO（実施）】

基本計画における目標値

指標名	単位	基準値 (H26)	H28目標値	H29目標値	H30目標値	H31目標値	H32目標値	H28年度	
			H28実績値	H29実績値	H30実績値	H31実績値	H32実績値	達成率	進捗率
① 鉄道の年間利用者数	千人	3,154	3,000 3,062	3,100	3,200	3,250	3,300	102.1%	92.8%
② バス1便当たりの利用者数	人	13.5	13.5 14.0	13.5	13.5	13.5	13.5	103.7%	103.7%
③ 長崎空港の年間利用者数	千人	3,008	3,000 2,997	3,100	3,200	3,300	3,340	99.9%	89.7%
④									
⑤									

施策達成状況の説明

鉄道の年間利用者数は、ここ数年間3,000千人程度で横ばいで推移している。
 路線バスについては大幅なダイヤ編成は無く、バス1便当たりの利用者数は微増となった。
 長崎空港利用者数は、近年の外国人観光客の増加により増加傾向が続いていたが、H28年度は熊本震災の影響もあり減少となった。

施策経費

(単位:千円)		H28年度 決算	H29年度 予算	H30年度 見込	特記事項
内訳	事業費	68,313	80,148	101,139	
	国庫支出金	0	0	7,246	
	県支出金	0	0	0	
	地方債	0	0	0	
	その他	433	12,453	434	
	一般財源	67,880	67,695	93,459	
人件費	9,186	8,360	-		
フルコスト	77,499	88,508	-		

施策の概要

180201	JR大村線の機能充実	九州新幹線西九州ルートの開業を踏まえ、JR大村線の新駅設置等を進めるとともに、新幹線との接続を考慮したダイヤ編成や増便等について関係機関に働きかけを行います。
180202	バス路線の再構築	通勤・通学や通院、買物など、市民の日常的な移動を支える効率的で利便性の高いバス路線の再編を図るため、ネットワーク化やダイヤ等の見直しに取り組みます。 また、JR大村駅や新幹線新大村駅（仮称）と路線バス等との接続を図ります。 路線バス等の既存の公共交通機関でカバーできない交通需要に対応するため、コミュニティバスや乗合タクシーなどを活用したデマンド型交通の導入について検討を進めます。
180203	長崎空港の利便性向上及び機能強化	長崎空港の利便性向上や機能強化を図るため、県や関係団体と連携し、国内線・国際線の定期路線の増設や増便、チャーター便の誘致、貨物輸送の強化などを推進するとともに、長崎空港の24時間化の実現を目指します。

【CHECK (評価)】

<p>施策を達成 する上での 問題点・課 題</p>	<p>大村市は新幹線開業、県立・大村市一体型図書館開館、木場スマートIC開始、池田沖田線整備などまちづくりの動きが活発になることから、これに合わせて公共交通ネットワークの再編が必要である。また、交通空白地域において、地域に適した公共交通を導入するため、地元意見等を十分に反映しながら、運行ルートや便数等を計画する必要がある。</p>
--	--

【ACTION (改善・改革)】

<p>問題点・課 題を踏まえ た施策構成 事務事業の 改善・改革 や新規事業 についての 考え方</p>	<p>新幹線開業による新駅整備や県立市立一体型図書館の開館など、市の都市構造の変化を見据えつつ、公共交通ネットワークの再編に取り組む。 交通空白地域の乗合いタクシー実証運行の実績や利用者アンケートを十分に分析し、地元意見交換会等の住民の声を参考にしながら、運行内容の見直しを行う。また、これらの実証運行の結果を鑑みて、他の交通空白地域の対策を検討する。</p>
--	--

平成30年度新規事業

事業名 (仮称)	担当課	H30年度見込	対象・事業概要など
		事業費	
1			
2			
3			
4			
5			
		0	

【評価調整委員会意見】

1	<p>施策推進担当部意見のとおり</p>	
<p>《特記事項》</p>		

【最終評価 (都市経営戦略会議)】

1	<p>評価調整委員会意見のとおり</p>	
<p>《特記事項》</p>		